

甘い粉末茶葉商品へ

静岡市清水区の東海大静岡翔洋高で11日、甘味付き粉末茶葉の商品開発に取り組む授業が始まった。1年生約80人が来年2月の商品化を目指す。

東海大静岡翔洋高 授業始まる



ウス茶糖と抹茶ミルクの飲み比べをする生徒
＝静岡市清水区の東海大静岡翔洋高

「家族で楽しむ」テーマ

高校生に地元の特産品である茶の価値を見直し、消費を次世代につなげるのが目的。生活協同組合ハルシステム静岡の担当者を講師に、「家族で楽しむ」県産のお茶を使った粉末茶葉を開発する。完成品は地産地消の商品を集めた同社のチラシに掲載する。初回授業では、原料の茶葉を提供する掛川市の製茶販売会社「山英」の担当者が茶の歴史や販売状況などを説明した。生徒は市販の「ウス茶糖」を水で割ったものと、ミルク成分の入った「抹茶ミルク」を牛乳で割ったものを飲み比べ、味の感想を話し合った。生徒は今後、市場調査や意見交換を重ね、味や内容量のほか、価格やパッケージデザインも考える。(清水支局・石岡美来)